

Cisco IOS XE 16.12でのHA SSOでのCatalyst 9800 WLCの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[制約事項](#)

[ハードウェアベースの9800 WLCでのHAの設定](#)

[ネットワーク図](#)

[コンフィギュレーション](#)

[Virtual 9800 WLCでのHAの設定](#)

[ネットワーク図](#)

[コンフィギュレーション](#)

[仮想冗長性ネットワークのセットアップ](#)

[HA 設定の指定](#)

[スタンバイ 9800 WLC へのコンソールアクセスの有効化](#)

[強制スイッチオーバー](#)

[HA の解除](#)

[両方の9800 WLCでのHA設定のクリア](#)

[ピアタイムアウトの設定](#)

[アップグレード](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco IOS® XE 16.10 ~ 16.12でCatalyst 9800ワイヤレスコントローラをハイアベイラビリティ(HA)SSOで設定する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Catalyst 9800ワイヤレスLANコントローラ(WLC)
- ステートフルスイッチオーバー(SSO)

- ハイアベイラビリティ(HA)
- 冗長ポート(RP)

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- 仮想 9800-CL WLC v16.10 ~ 16.12
- 9800-40 WLC v16.10 ~ 16.12

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

Catalyst 9800用のCisco IOS XE 17.x以降。このドキュメントの記事では、バージョン16.xのHA SSOを中心に説明します。

冗長管理インターフェイスの概念によって、多くの違いが追加されています。これらは専用ガイド『[Cisco Catalyst 9800シリーズワイヤレスコントローラの高可用性SSO導入ガイド、Cisco IOS XE Amsterdam 17](#)』で説明されています。

この記事で説明する冗長性は1:1です。つまり、一方のユニットはアクティブ状態で動作し、もう一方のユニットはホットスタンバイ状態で動作します。アクティブボックスが到達不能として検出されると、ホットスタンバイユニットがアクティブになり、すべてのAPとクライアントは新しいアクティブユニットを介してサービスを維持します。

両方のユニットが同期されると、スタンバイ9800 WLCはプライマリユニットで設定を模倣します。アクティブユニットで実行された設定変更は、リダンダンシーポート(RP)経由でスタンバイユニットに複製されます。

スタンバイ 9800 WLC での設定変更は、できなくなりました。

ボックス間の設定の同期に加えて、次の同期も行われます。

- UP状態のAP (ダウンロード状態のAPやDTLSハンドシェイクのAPではありません)
- RUN状態のクライアント (Web Authentication required状態のクライアントがあり、スイッチオーバーが発生した場合、そのクライアントはアソシエーションプロセスを再起動する必要があります)
- RRMの設定
- (その他の設定)

制約事項

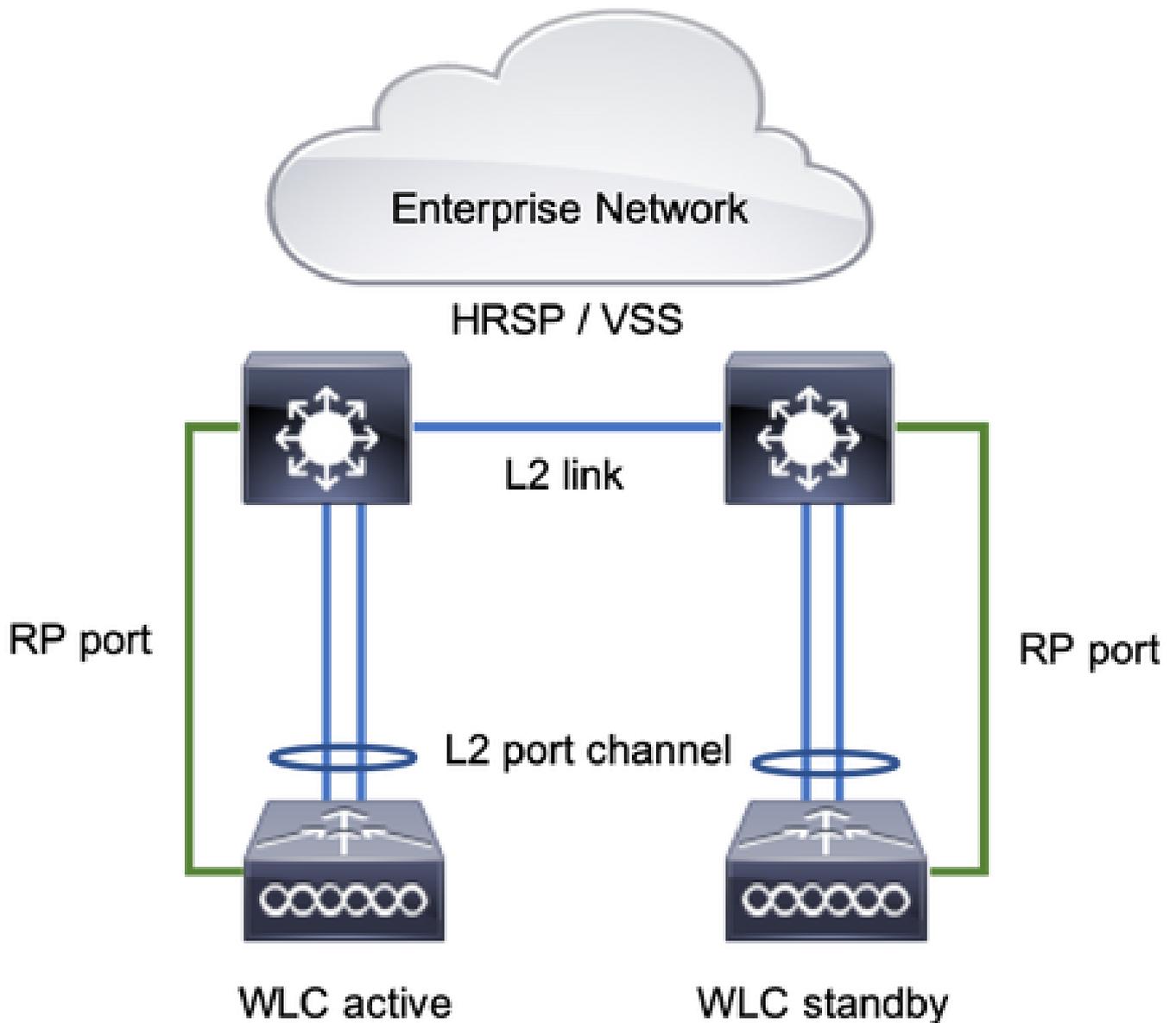
2台の9800 WLC間でHAを有効にする前に、次の検証を実行します。

- 両方のデバイスが、同じ PID である必要があります。9800-CLの場合、ホスト環境（ESXi、KVM、またはENCS）が両方のインスタンスで同じであることを確認します。
- 両方のデバイスが、同じバージョンのソフトウェアを実行する必要があります。
- 両方のデバイスは同じインストールモード（バンドルまたはインストール）で実行する必要があります。WLCのインストールモードを実行することを推奨します。
- 両方のデバイスが同じサブネット内に冗長IPを持つ必要があります。冗長性に使用されるIPアドレスは、サブネットにゲートウェイが存在しなければ、ルーティング不可能である必要があります。
- 両方のデバイスに一意のワイヤレス管理インターフェイスが必要です。
- 両方のデバイスのワイヤレス管理インターフェイスが、同じ VLAN/サブネットに属している必要があります。
- 9800-CLでは、
 - 同じCPU、メモリ、およびストレージリソースが両方のインスタンスに割り当てられていることを確認します。
 - 両方のインスタンスで VM スナップショットが無効になっていることを確認してください。
 - 両方のデバイスがHA用に同じインターフェイス番号（例：GigabitEthernet3）を使用する必要があります。

ハードウェアベースの9800 WLCでのHAの設定

ネットワーク図

このドキュメントは、次のトポロジに基づいています。



コンフィギュレーション

冗長性SSOはデフォルトで有効になっていますが、ユニット間の通信設定は引き続き必要です。

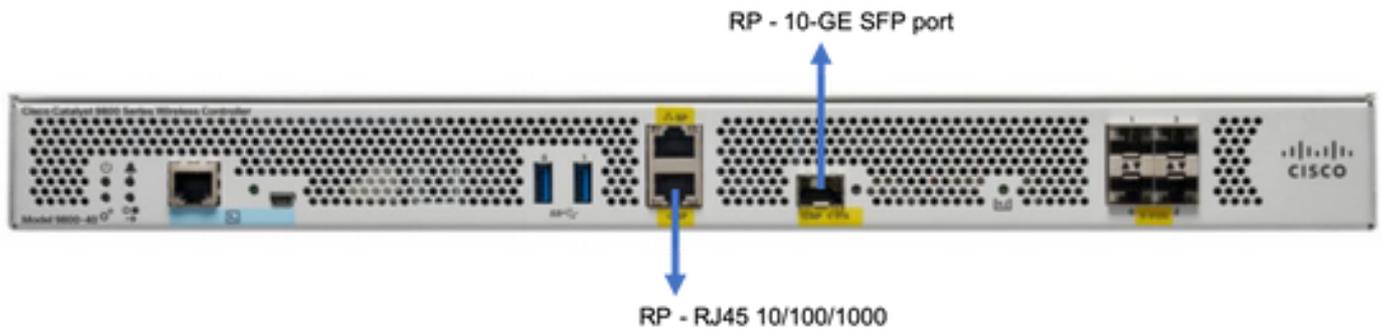
ステップを設定する前に、両方のボックスで同じバージョンが稼働していることを確認してください。

ステップ 1：9800 WLCをネットワークに接続し、相互に到達可能であることを確認します。

両方のボックスのワイヤレス管理インターフェイスが、同じ VLAN およびサブネットに属している必要があります。

ステップ 2：ネットワークトポロジに示すようにRPを接続します。9800 WLCのRPに接続するには、次の2つのオプションがあります。

- RP:RJ45 10/100/1000冗長イーサネットポート
- RP : 10-GE SFP ポート



注: Cisco IOS XE 16.10 ~ 16.12では、9800の管理接続が接続されているスイッチと同じスイッチに9800の冗長ポートを接続することをお勧めします（ネットワークトポロジを参照）。これは、これらのバージョンではゲートウェイの到達可能性に関する検証がないためです。バックツーバック接続は機能しますが、この方法で接続すると、9800台のコントローラがアクティブ-アクティブになる可能性が高くなります。RPポートはVLANタギングを使用しないことに注意してください。

ステップ 3 : 両方の9800 WLCに冗長IPアドレスを割り当てます

GUI :

[Administration > Device > Redundancy. オフ]に移動Clear Redundancy Configし、目的のIPアドレスを入力します。

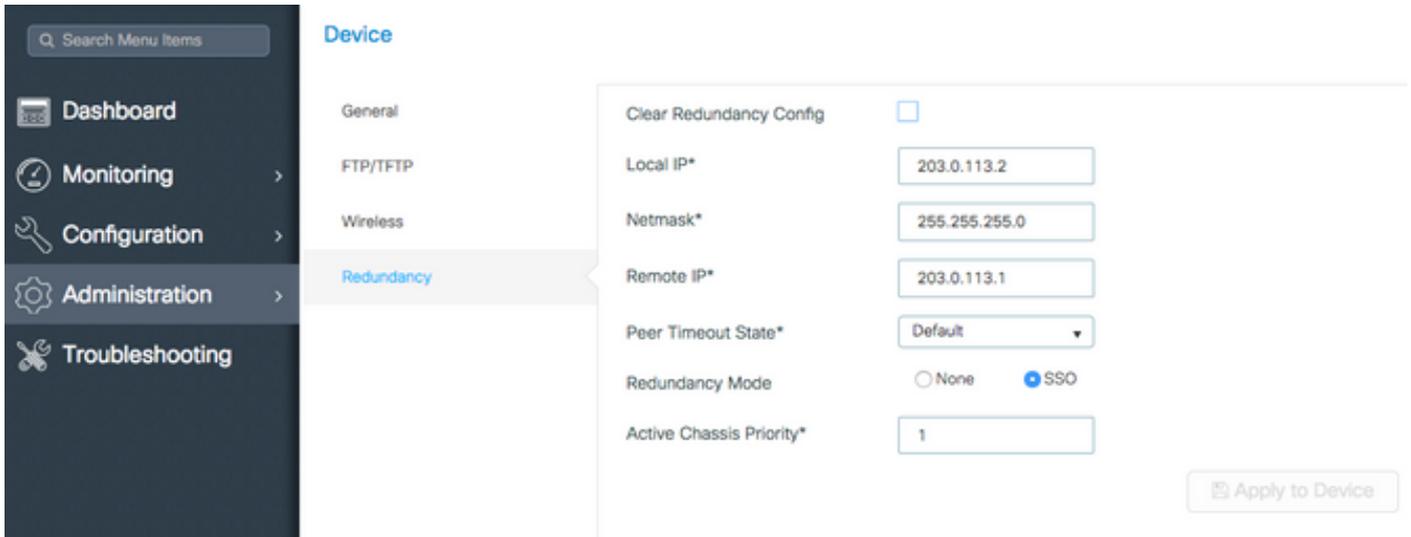
両方のユニットは一意のIPアドレスを持ち、両方とも同じサブネットに属している必要があります。

このサブネットは、ネットワーク内のどこでもルーティング可能ではありません。

9800 WLC-1

A screenshot of the Cisco GUI configuration page for a device. The left sidebar shows a navigation menu with options: Dashboard, Monitoring, Configuration, Administration (selected), and Troubleshooting. The main content area is titled "Device" and shows the "Redundancy" configuration page. The "Clear Redundancy Config" checkbox is unchecked. The "Local IP*" field contains "203.0.113.1". The "Netmask*" field contains "255.255.255.0" and is highlighted in yellow. The "Remote IP*" field contains "203.0.113.2". The "Peer Timeout State*" dropdown is set to "Default". The "Redundancy Mode" has radio buttons for "None" and "SSO", with "SSO" selected. The "Active Chassis Priority*" field contains "1". An "Apply to Device" button is located at the bottom right.

9800 WLC-2



CLI :

16.10

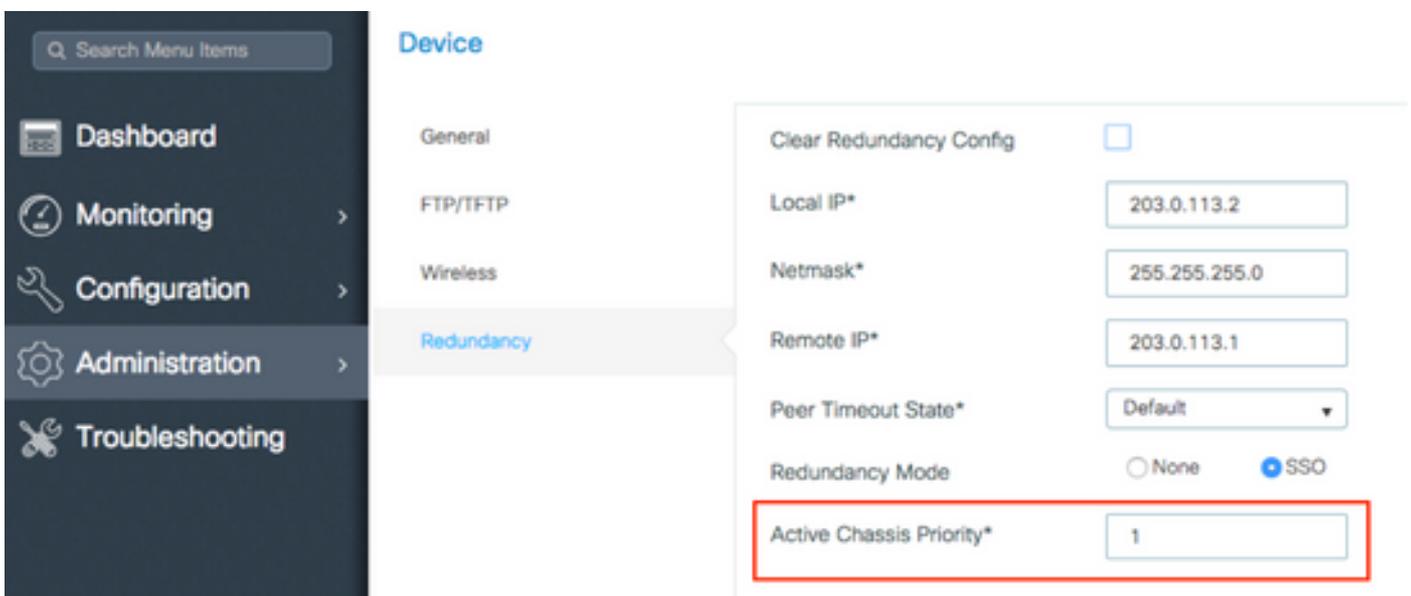
```
9800 WLC-1# chassis ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->  
9800 WLC-2# chassis ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

16.11

```
9800 WLC-1# chassis redundancy ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->  
9800 WLC-2# chassis redundancy ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

アクティブな9800 WLCにするユニットを指定するには、GUIまたはCLIでシャーシのプライオリティを設定します。プライオリティの高いユニットがプライマリとして選択されます。

GUI :



CLI :

```
16.10
# chassis 1 priority <1-15>
16.11
# chassis 1 priority <1-2>
```

特定のユニットがアクティブになるように選択されていない場合、そのユニットは最も小さいMACアドレスに基づいてアクティブを選択します

次のコマンドを使用して、現在の設定を確認します。

```
# show chassis ha-status local My state = ACTIVE Peer state = DISABLED Last switchover reason = none Last switchover time = none Image Version = .
```

ステップ 4 : 両方の9800 WLCでの設定の保存

GUI :



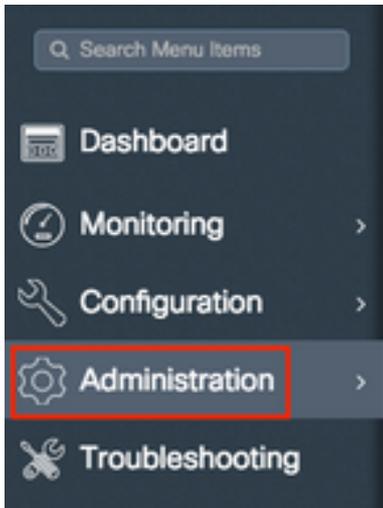
CLI :

```
# write
```

ステップ 5 : 両方のユニットを同時に再起動する

GUI :

移動先 **Administration > Management > Backup & Restore > Reload**



Backup & Restore

Config File Management **Reload**

Save Configuration and Reload.

Reload without Saving Configuration.

Reset to Factory Default and Reload.

✓ Apply to Device

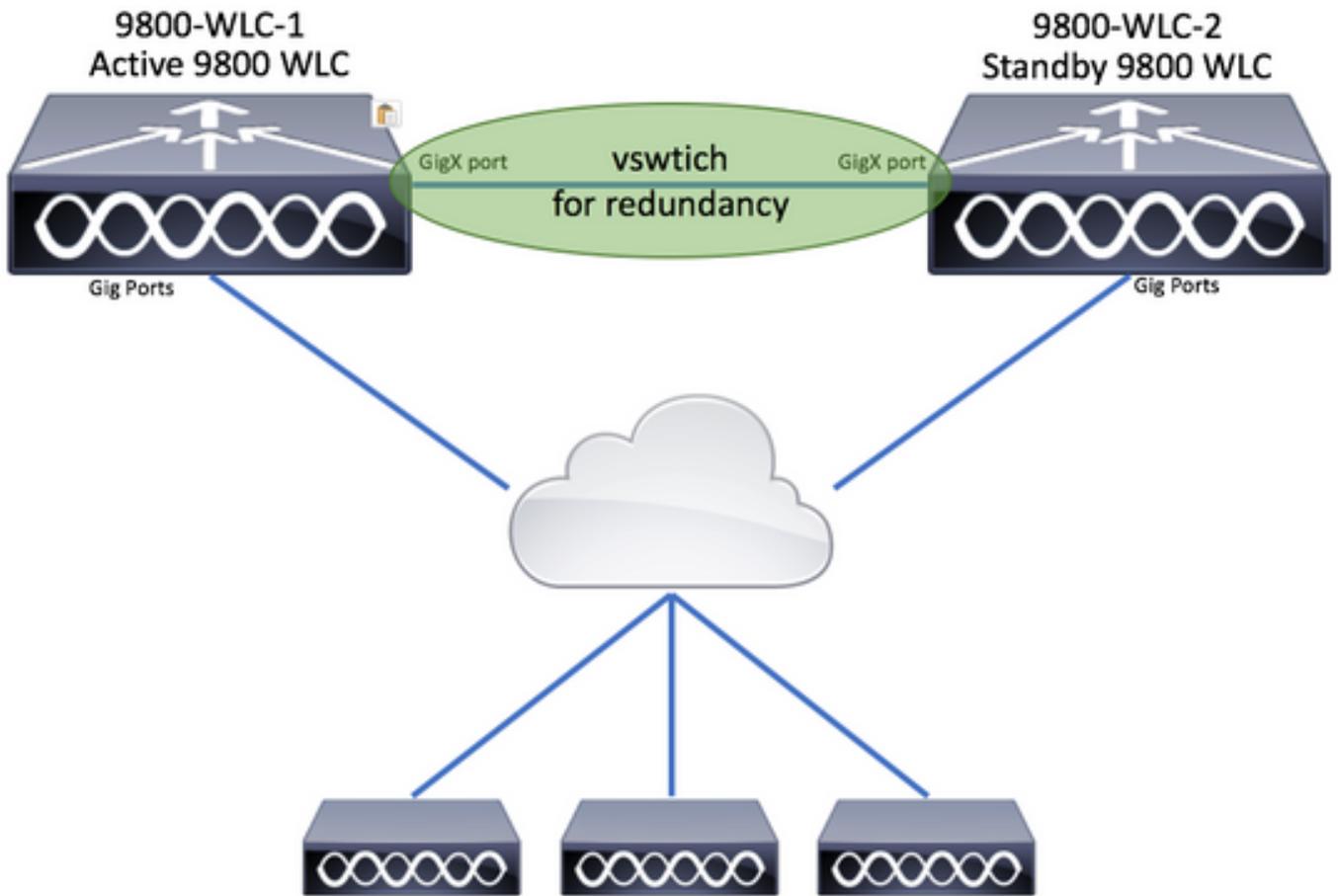
CLI :

```
# reload
```

Virtual 9800 WLCでのHAの設定

ネットワーク図

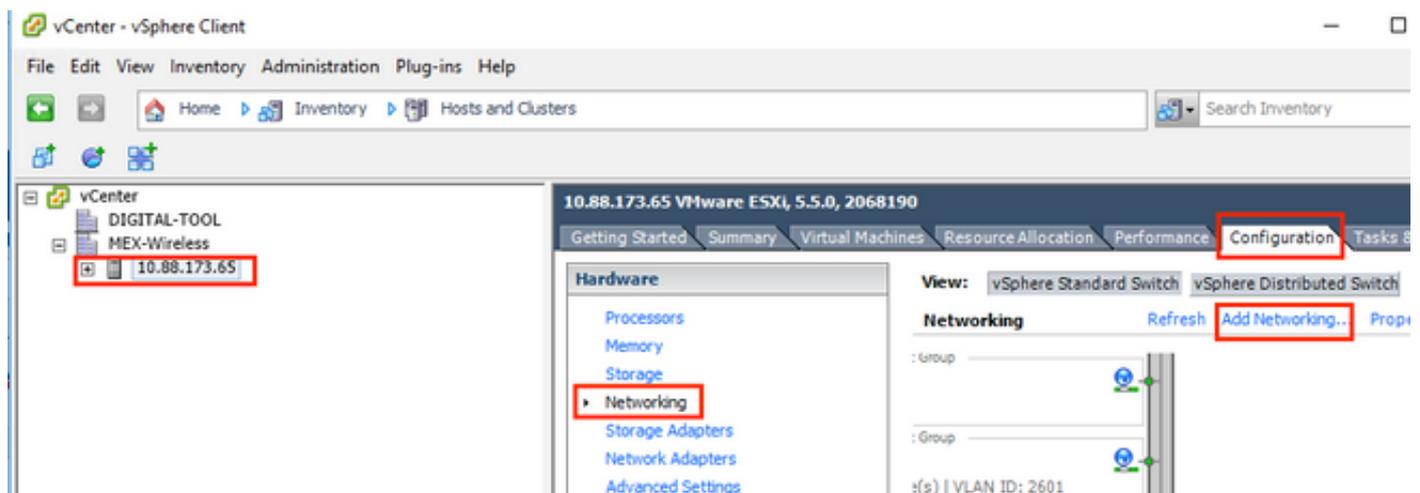
このドキュメントは、次のトポロジに基づいています。



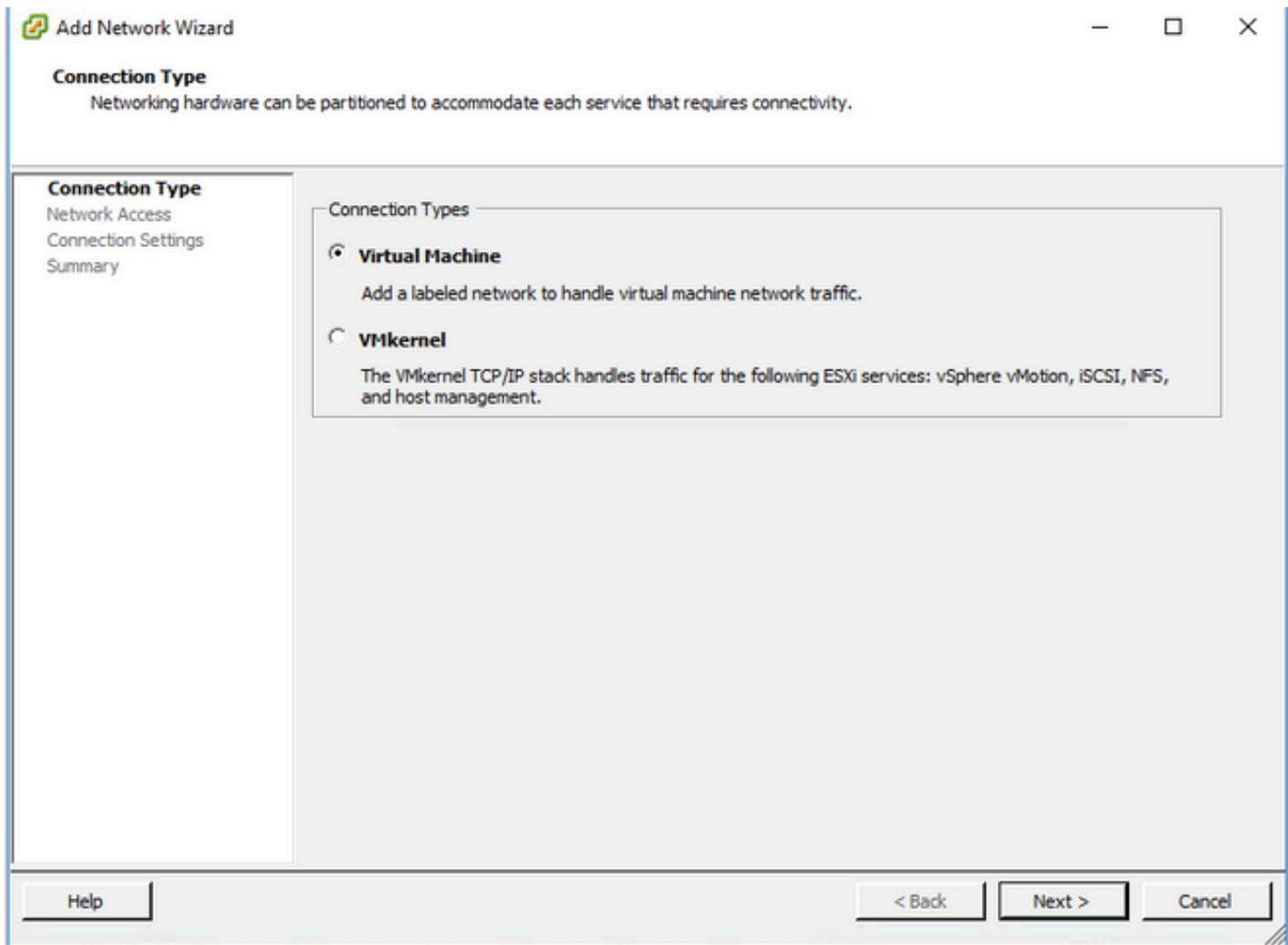
コンフィギュレーション

仮想冗長性ネットワークのセットアップ

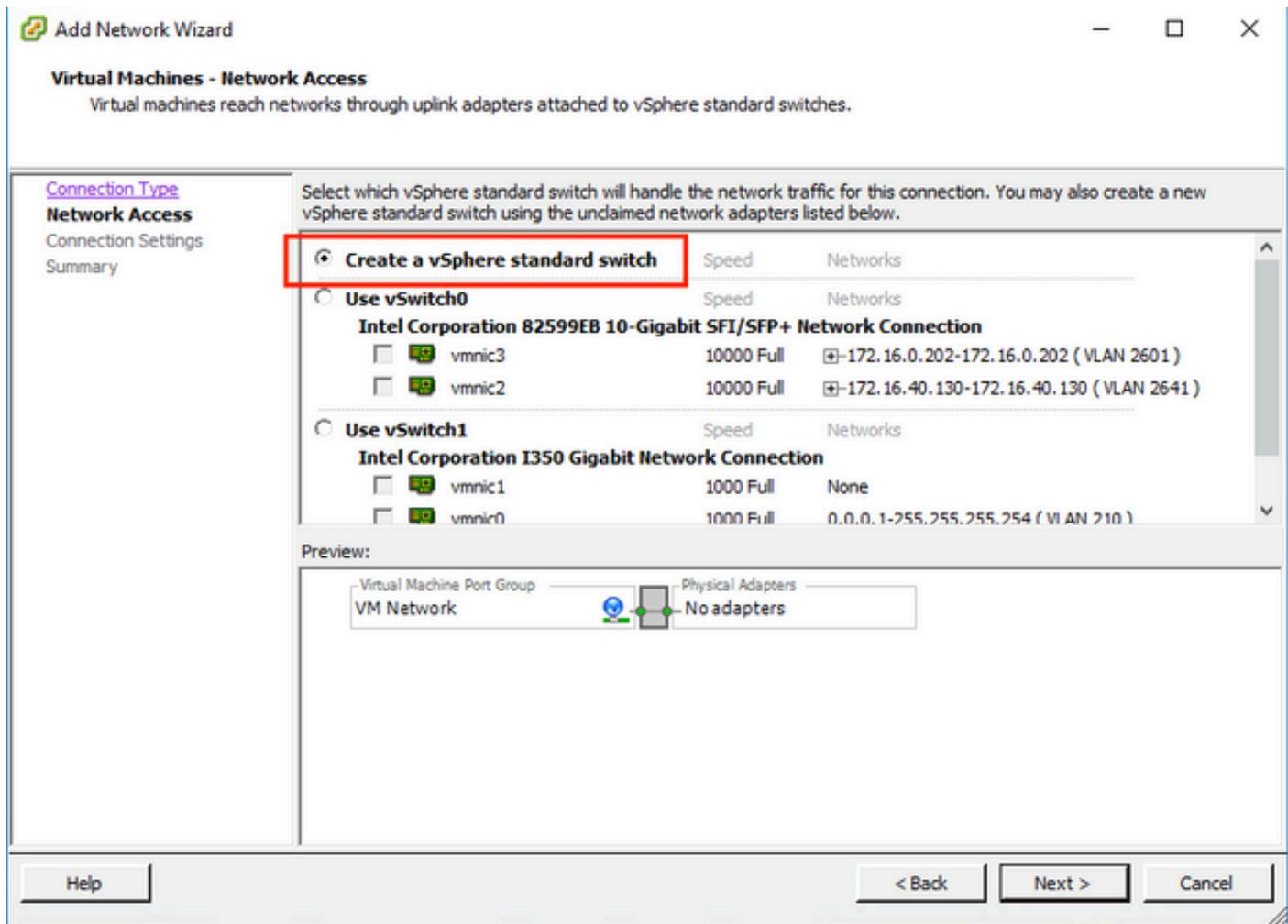
ステップ 1 : vCenterクライアントを開き、 **Host > Configuration > Networking > Add Networking.**



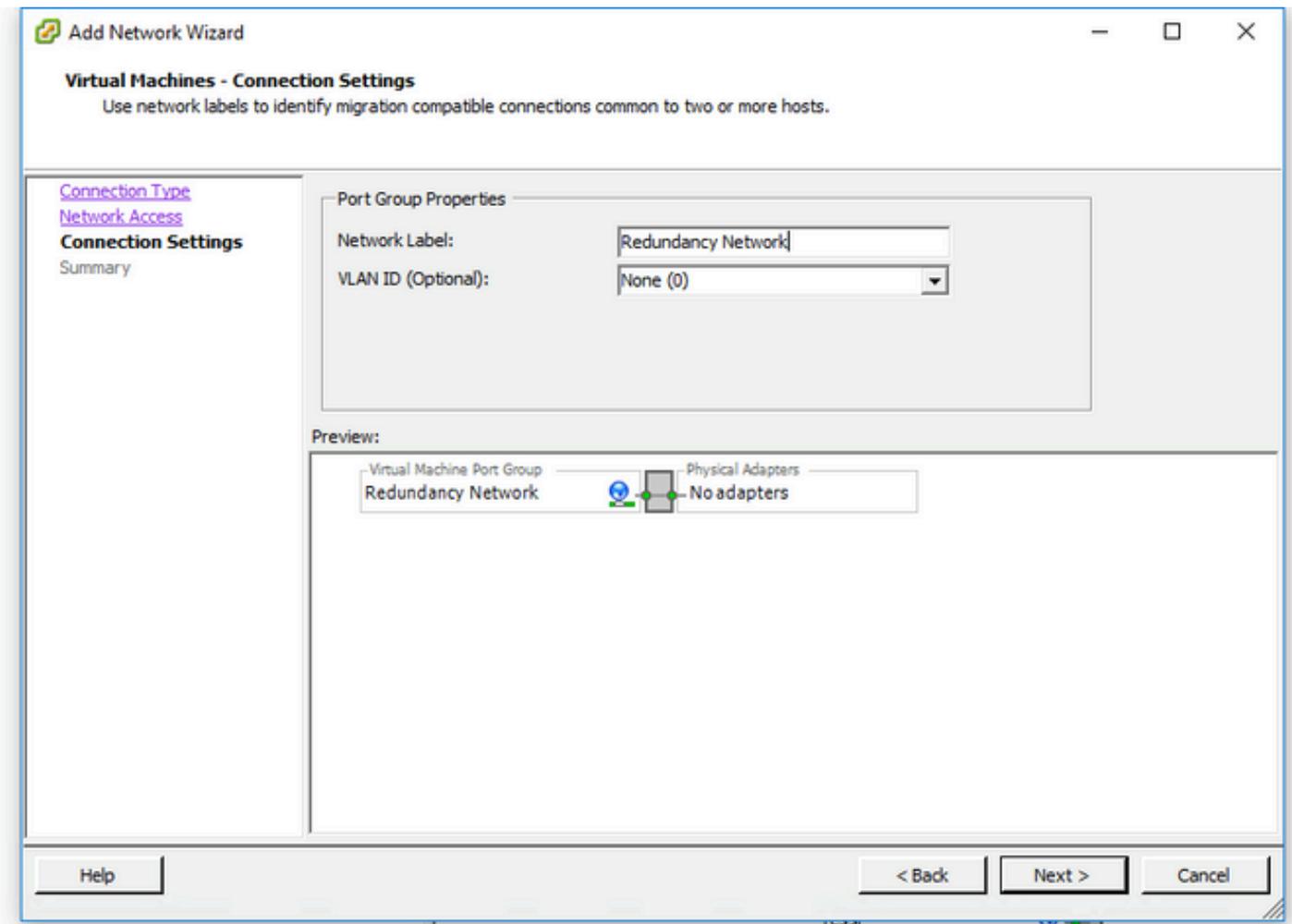
ステップ 2 : を選択Virtual Machine し、 Next.



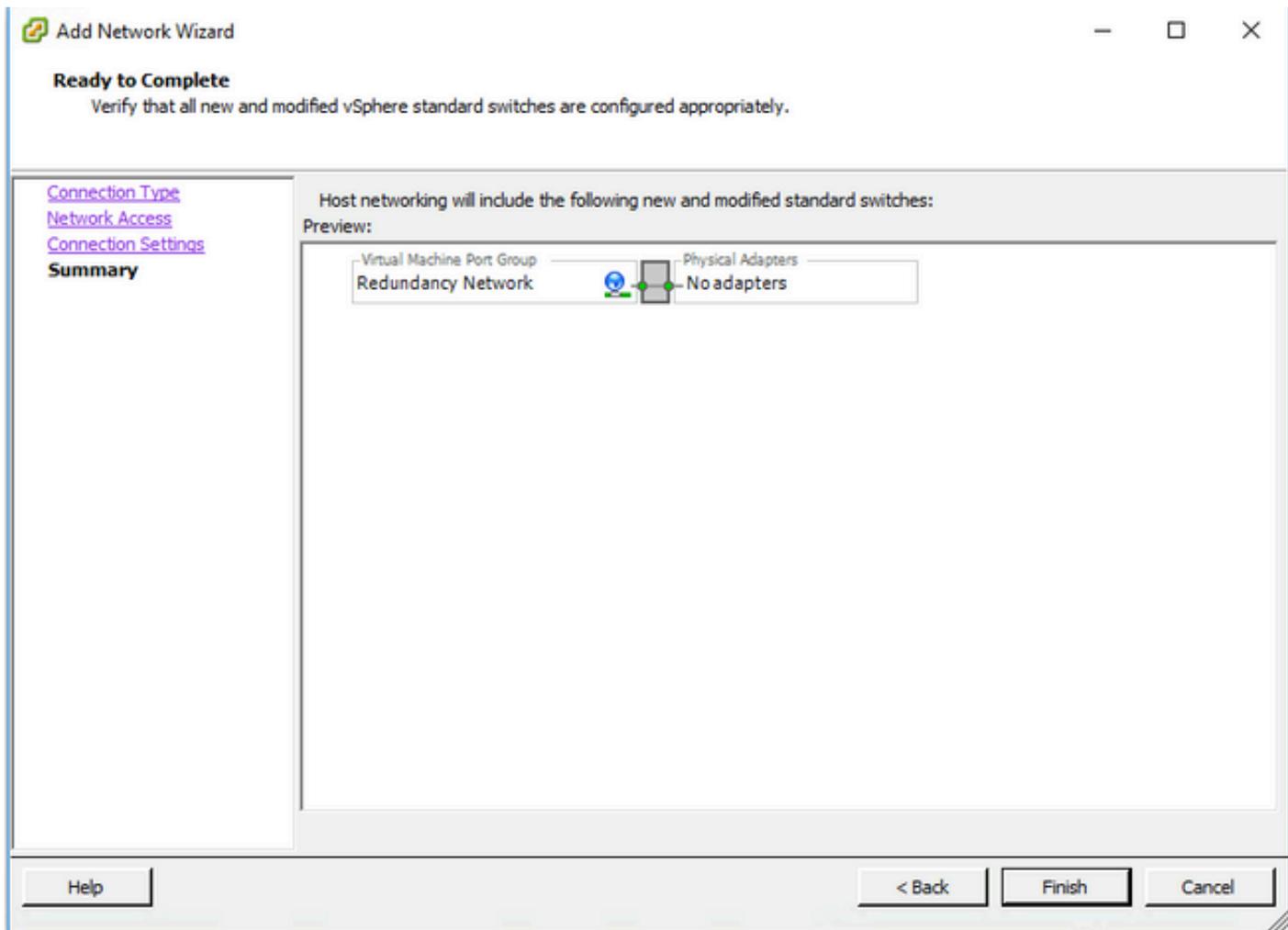
ステップ 3 : を選択Create a vSphere standard switch し、 Next.



ステップ 4 : 必要に応じて、パラNetwork Label メータをカスタマイズします。クリック後 Next.

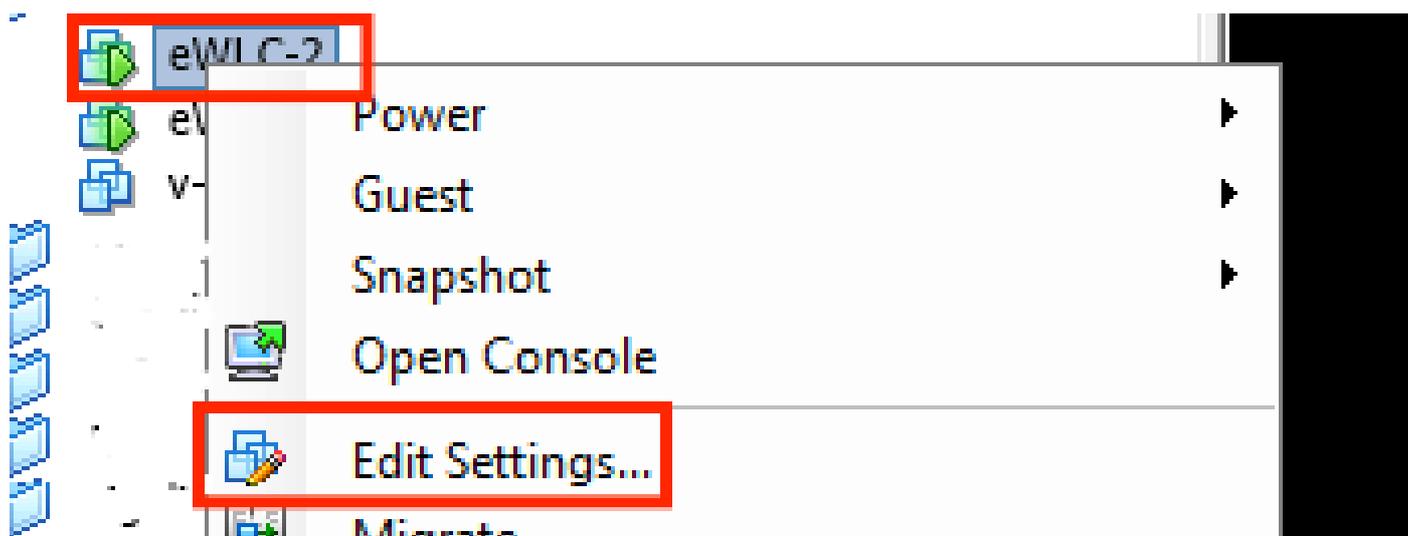


ステップ 5 : ウィザードを終了します。

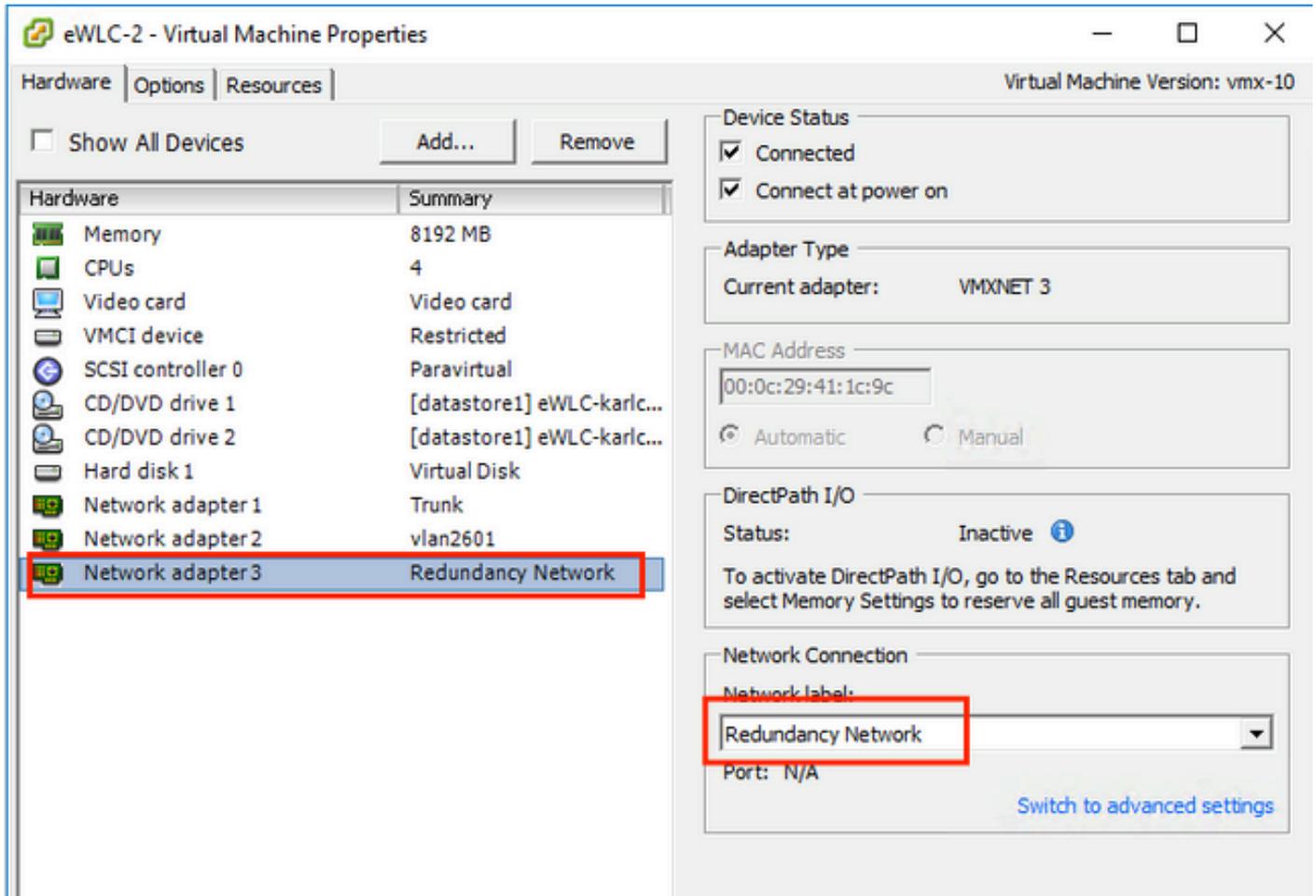


手順 6 : 両方の仮想9800 WLC (すべての仮想9800 WLCの1つ) から冗長ネットワークにインターフェイスをリンクします。

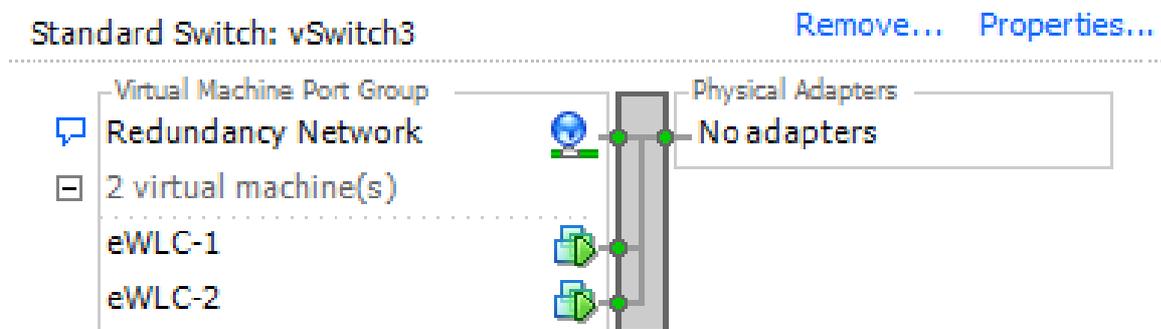
仮想9800 WLCを右クリックし、 **Edit Settings...**



使用可能なネットワークアダプタの1つを選択し、に割り当てRedundancy Network, て、[OK]をクリックします。



両方のマシンで同じ手順を実行します。



HA 設定の指定

さらに設定を行う前に、両方のユニットからのワイヤレス管理インターフェイスが同じVLANとサブネットに属し、相互に到達可能であることを確認します。

両方のボックスで同じバージョンが稼働していることを確認します。

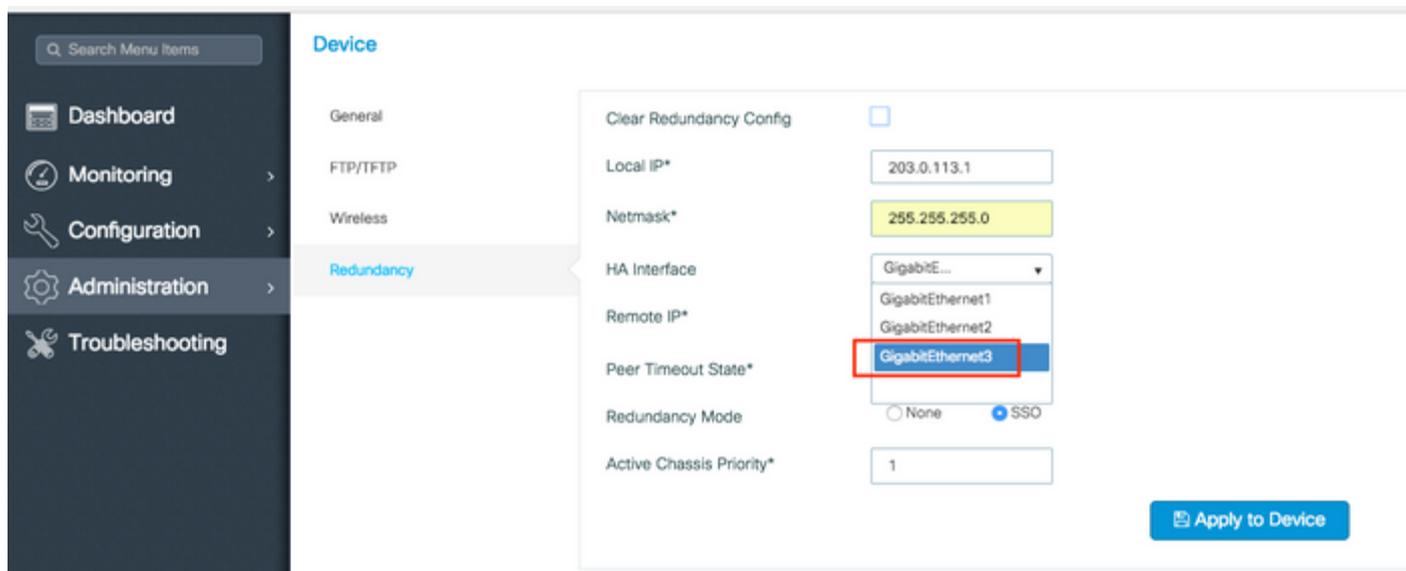
ステップ 1：両方の9800 WLCに冗長IPアドレスを割り当てます

GUI：

[Administration > Device > Redundancy. オフ]に移動Clear Redundancy Config し、目的のIPアドレスを入力します。

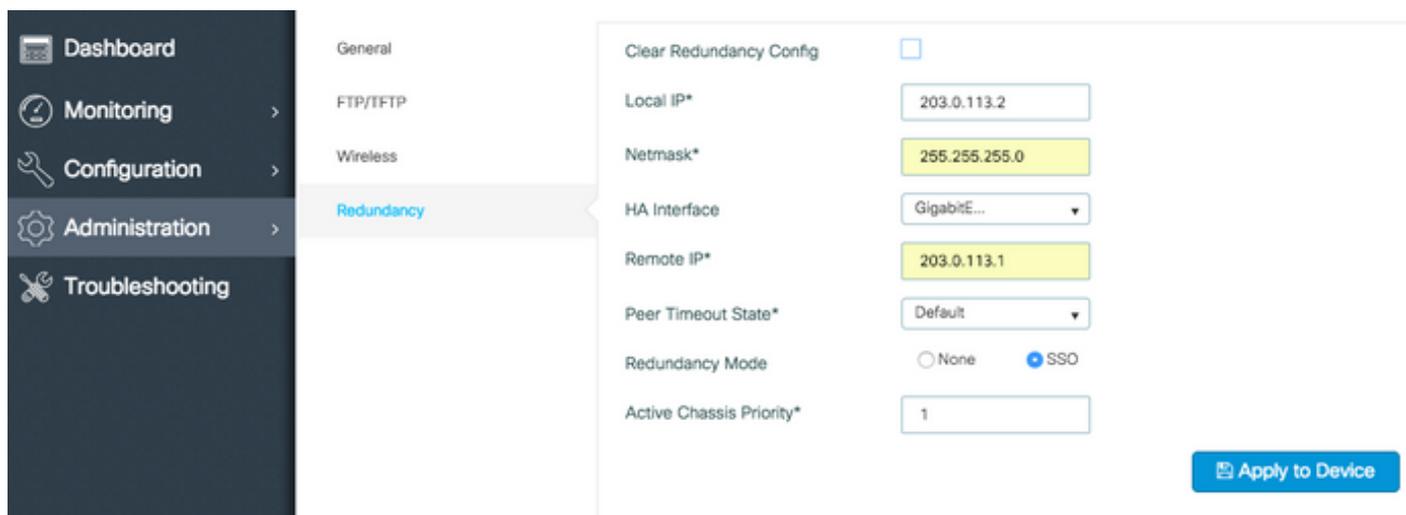
両方に一意のIPアドレスがあり、両方のユニットが同じサブネットに属していることを確認します。

9800 WLC-1



The screenshot shows the Cisco WLC GUI for 9800 WLC-1. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Monitoring, Configuration, Administration, and Troubleshooting. The main content area is titled "Device" and shows the "Redundancy" configuration page. The "Clear Redundancy Config" checkbox is unchecked. The "Local IP*" is 203.0.113.1, "Netmask*" is 255.255.255.0, and "Remote IP*" is 203.0.113.1. The "HA Interface" dropdown menu is open, showing options: GigabitEthernet1, GigabitEthernet2, and GigabitEthernet3 (highlighted with a red box). The "Peer Timeout State*" is set to "None", "Redundancy Mode" is "SSO", and "Active Chassis Priority*" is 1. An "Apply to Device" button is visible at the bottom right.

9800 WLC-2



The screenshot shows the Cisco WLC GUI for 9800 WLC-2. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Monitoring, Configuration, Administration, and Troubleshooting. The main content area is titled "Device" and shows the "Redundancy" configuration page. The "Clear Redundancy Config" checkbox is unchecked. The "Local IP*" is 203.0.113.2, "Netmask*" is 255.255.255.0, and "Remote IP*" is 203.0.113.1. The "HA Interface" dropdown menu is open, showing options: GigabitEthernet1, GigabitEthernet2, and GigabitEthernet3. The "Peer Timeout State*" is set to "Default", "Redundancy Mode" is "SSO", and "Active Chassis Priority*" is 1. An "Apply to Device" button is visible at the bottom right.

 注:HAインターフェイスにはGigabitEthernet3が選択されています。これは、仮想マシンの3番目のインターフェイスが冗長ネットワークに関連付けられていることが原因です。このインターフェイスは、Cisco IOSが起動する前に2つのボックス間の通信を有効にし、HA制御メッセージ（ロール選択、キープアライブなど）の転送を有効にし、2つのボックス間のプロセッサ間通信(IPC)の転送を提供するために使用されます。

16.10 CLI :

```
9800 WLC-1# chassis ha-interface gigabitEthernet 3 local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address--> 9800 WLC-2# chassis ha-interface gigabitEthernet
```

16.12 CLI :

```
9800WLC1# chassis redundancy ha-interface g3 local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

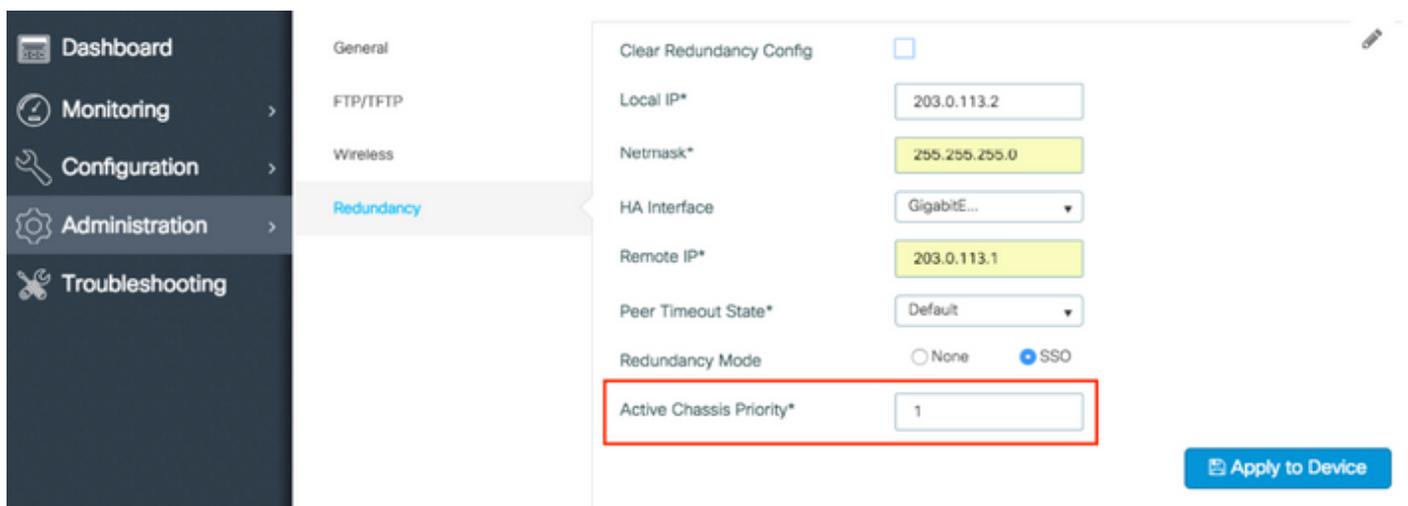
```
9800WLC2# chassis redundancy ha-interface g3 local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

 注: GigabitEthernet 3 インターフェイスが HA として使用されるように選択され、(HA が 2 つの 9800 WLC 間で構築されていない場合でも) ユニットの再起動されると、このインターフェイスは **show ip interface brief** or any other command that shows the 9800 WLC's interfaces, this is because that interface is now marked for HA only.

ステップ 2: (オプション) アクティブな 9800 WLC にするボックスを手動で指定するには、GUI ま **Active Chassis Priority** たは CLI のいずれかを使用してを設定します。

優先順位の高いシャーシが、プライマリとして選択されます。

GUI :



The screenshot shows the GUI configuration page for Chassis Redundancy. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Monitoring, Configuration, Administration, and Troubleshooting. The main content area is divided into sections: General, FTP/TFTP, Wireless, and Redundancy. The Redundancy section is active, showing configuration options for HA Interface, Local IP, Netmask, Remote IP, Peer Timeout State, Redundancy Mode, and Active Chassis Priority. The Active Chassis Priority field is highlighted with a red box and contains the value '1'. An 'Apply to Device' button is visible at the bottom right.

CLI :

```
# chassis 1 priority <1-15>
```

アクティブにする特定のユニットが指定されていない場合は、ボックスでプライマリのアクティブな 9800 WLC が選択されます。

ステップ 3 : 両方の 9800 WLC での設定の保存

GUI :

Welcome *admin*



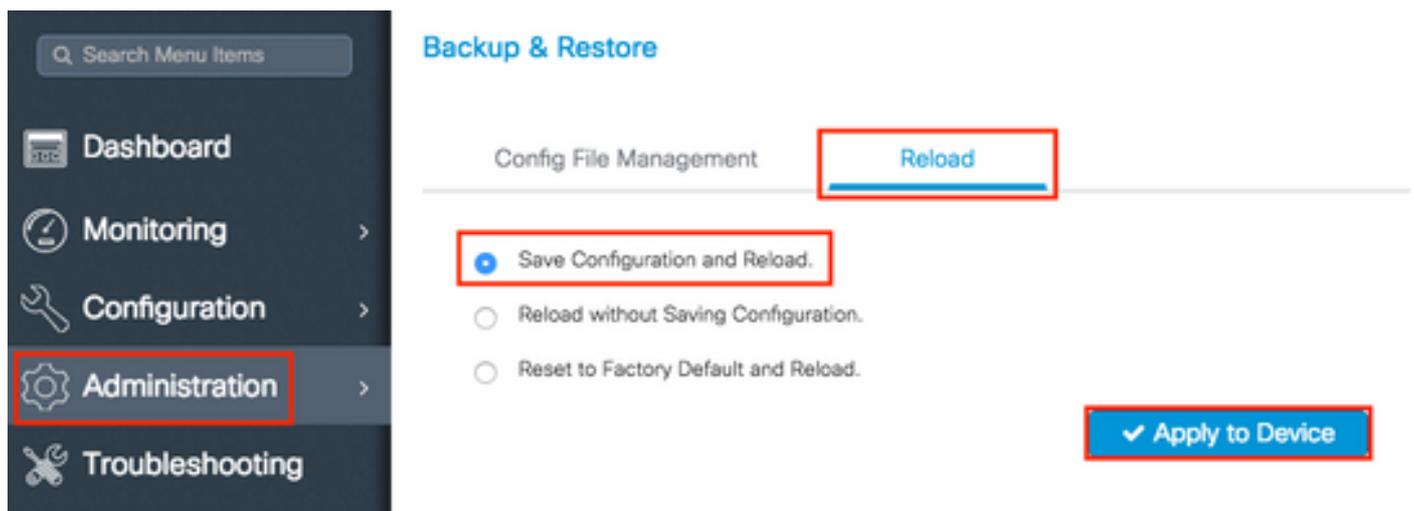
CLI :

write

ステップ 4 : 両方のボックスを同時に再起動します。

GUI :

移動先 **Administration > Management > Backup & Restore > Reload**



CLI :

reload

スタンバイ 9800 WLC へのコンソールアクセスの有効化

HAをイネーブルにして、一方のボックスをアクティブに、他方のボックスをスタンバイホットに割り当てると、デフォルトでは、スタンバイボックスがexecモード (イネーブル) に到達できません。

これを有効にするには、SSH/コンソール経由でアクティブな9800 WLCにログインし、次のコマンドを入力します。

```
# config t # redundancy # main-cpu # standby console enable # end
```

強制スイッチオーバー

ボックス間のスイッチオーバーを強制するには、アクティブな9800 WLCを手動でリブートするか、次のコマンドを実行します。

```
# redundancy force-switchover
```

HA の解除

両方の9800 WLCでのHA設定のクリア

両方のボックスで HA を解除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 : 現在アクティブな9800 WLCのHA設定をクリアし、強制的に冗長性スイッチオーバーを実行します (現在アクティブな9800 WLCがリブートされ、HA設定がクリアされた状態でブートアップします) 。

16.10:

```
Active-9800 WLC# chassis clear
```

WARNING: Clearing the chassis HA configuration results in the chassis coming up in Stand Alone mode after reboot.The HA configuration remains the same

```
Active-9800 WLC# redundancy force-switchover
```

16.11

```
Active-9800 WLC# clear chassis redundancy
```

ステップ 2 : スタンバイ9800 WLCがアクティブになったら、ログインして冗長性設定をクリアします。

```
new-Active-9800 WLC# chassis clear
```

WARNING: Clearing the chassis HA configuration will result in the chassis coming up in Stand Alone mode after reboot.The HA configuration will remain the same

ステップ 3 : 新しいアクティブな9800 WLCのIPアドレスを更新します。必要に応じて、ホスト名を更新します。

```
new-Active-9800 WLC# config t
```

```
new-Active-9800 WLC# hostname <new-hostname>
```

```
new-Active-9800 WLC# interface <wireless-mgmt-int-id> new-Active-9800 WLC# ip address <a.b.c.d> <a.b.c.d>
```

```
new-Active-9800 WLC# exit
```

ステップ 4 : 設定を保存し、新しいActive 9800 WLCをリロードします

```
new-Active-9800 WLC# write
new-Active-9800 WLC# reload
```

その後、2番目のボックスが再起動し、(以前のHA 9800 WLCとのIPアドレスの重複を避けるために)新しいIPアドレス設定とHA設定がクリアされた状態で戻ります。元のアクティブな9800 WLCは、元のIPアドレスを保持します。

ピアタイムアウトの設定

アクティブ側のシャーシとスタンバイ側のシャーシは、キープアライブメッセージを相互に送信して、両方が引き続き使用可能であることを確認します。

ピアタイムアウトは、設定されたピアタイムアウトでピアシャーシからキープアライブメッセージを受信しなかった場合に、ピアシャーシが失われているかどうかを判断するために使用されます。

デフォルトのタイムアウトは 500ms ですが、CLI を使用して設定できます。設定されたタイムアウト値は、スタンバイ 9800 WLC に同期されます。

このタイマーをカスタマイズするには、次のコマンドを使用します。

```
# chassis timer peer-timeout <500-16000 msec>
```

設定されたタイマーをクリアするには、次のコマンドを使用します (必要な場合)。

```
# chassis timer peer-timeout default
```

アップグレード

標準 (APまたはISSUではない) アップグレードは、Web UIから実行できます。WLC が HA ペアになると、それらは、同じバージョンを同じモード (インストールモードが望ましい) で実行します。

Web UIアップグレードページでは、ペアの両方のコントローラへのソフトウェア配布が行われ、両方のユニットのインストールとリブートが同時に行われます。

これにより、両方のユニットで同じダウンタイムが発生します。ダウンタイムを短縮するその他の方法については、『[パッチ適用とインストールガイド](#)』を参照してください。

確認

両方の9800 WLCユニットがリブートし、互いに同期された後、コンソールを介してそれらにアクセスし、次のコマンドを使用して現在の状態を確認できます。

```
<#root>
```

```
9800 WLC-1# show chassis
```

```
Chassis/Stack Mac Address : <!--IP address--> - Local Mac Address Mac persistency wait time: Indefinit
```

```
<#root>
```

```
9800 WLC-1-stby# show chassis
```

```
Chassis/Stack Mac Address : <!--IP address--> - Local Mac Address Mac persistency wait time: Indefinit
```



注：スタンバイでもIPが表示されます。修正については、[Cisco Bug ID CSCvm64484](#)を追跡してください。

* (アスタリスク) は、コマンドを実行するシャーシを示します。

```
<#root>
```

```
9800 WLC-1# show redundancy
```

```
Redundant System Information : ----- Available system uptime = 1 hour, 35 min
```

アクティブ 9800 WLC とスタンバイ 9800 WLC の両方からの現在のデータを調べて、両方で同じであることを確認できます。

例:

```
<#root>
```

```
9800 WLC-1# show ap summary chassis active r0
```

```
Number of APs: 2 AP Name Slots AP Model Ethernet MAC Radio MAC Location Country IP Address State -----
```

```
9800 WLC-1# show ap summary chassis standby r0
```

```
Number of APs: 2 AP Name Slots AP Model Ethernet MAC Radio MAC Location Country IP Address State -----
```

トラブルシュート

2つのハードウェア 9800 WLC 間で成功した HA ペア同期のコンソール出力の例：

9800 WLC-1

<#root>

```
9800 WLC-1# chassis ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

```
9800 WLC-1# show chassis
```

```
Chassis/Stack Mac Address : <!--MAC address--> - Local Mac Address Mac persistency wait time: Indefini
```

```
9800 WLC-1# wr
```

```
Building configuration... [OK]
```

```
9800 WLC-1# reload
```

```
Reload command is issued on Active unit, this will reload the whole stack Proceed with reload? [confir
```

```
.  
.
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %IOSXE_REDUNDANCY-6-PEER: Active detected chassis 2 as standby. *MMM DD HH:MM:SS.X
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %PMAN-3-PROC_EMPTY_EXEC_FILE: Chassis 2 R0/0: pvp: Empty executable used for proc
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %REDUNDANCY-5-PEER_MONITOR_EVENT: Active detected a standby insertion (raw-event=F
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %REDUNDANCY-5-PEER_MONITOR_EVENT: Active detected a standby insertion (raw-event=F
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %IOSXE_PEM-6-INSPEM_FM: PEM/FM Chassis 2 slot P0 inserted *MMM DD HH:MM:SS.XXX: %
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: % Redundancy mode change to SSO
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %VOICE_HA-7-STATUS: NONE->SSO; SSO mode will not take effect until after a platfo
```

```
MMM DD HH:MM:SS.XXX: %RF-5-RF_TERMINAL_STATE: Terminal state reached for (SSO)
```

9800 WLC-2

<#root>

```
9800 WLC-2# chassis ha-interface local-ip <!--IP address--> remote-ip <!--IP address-->
```

```
9800 WLC-2# show chassis
```

```
Chassis/Stack Mac Address : <!--MAC address--> - Local Mac Address Mac persistency wait time: Indefinite
```

```
9800 WLC-2# wr
```

```
Building configuration... [OK]
```

```
9800 WLC-2# reload
```

```
Reload command is issued on Active unit, this will reload the whole stack Proceed with reload? [confirm]
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %REDUNDANCY-3-PEER_MONITOR: PEER_FOUND event on standby
```

```
*MMM DD HH:MM:SS.XXX: %SMART_LIC-6-AGENT_READY: Smart Agent for Licensing is initialized *MMM DD HH:MM:SS.XXX: %SMART_LIC-6-AGENT_READY: Smart Agent for Licensing is initialized
```

```
MMM DD HH:MM:SS.XXX: %PLATFORM-6-RF_PROG_SUCCESS: RF state STANDBY HOT
```

任意のユニットで次のコマンドを実行すると、デフォルトでは、HA同期のアップデートが5秒ごとに表示されます。

```
<#root>
```

```
# show redundancy history monitor [ interval <5-3600 seconds > ]
```

```
Sep 21 15:24:24.727 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) RP Platform RF(1340) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.727 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) RP Platform RF(1340) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.740 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) CWAN Interface Events(1504) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) CWAN Interface Events(1504) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) CWAN Interface Events(1504) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT HA(401) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT HA(401) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT HA(401) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT64 HA(404) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT64 HA(404) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.741 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) NAT64 HA(404) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.743 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Relay(148) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.743 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Relay(148) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.743 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Relay(148) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.782 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Server(149) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.782 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Server(149) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:24.782 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) DHCPv6 Server(149) op=8 rc=11
Sep 21 15:24:24.783 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) Last Slave(65000) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:25.783 RF_PROG_STANDBY_HOT(105) Last Slave(65000) op=8 rc=0
Sep 21 15:24:25.783 RF_EVENT_CLIENT_PROGRESSION(503) Last Slave(65000) op=8 rc=0
```

```
End = e Freeze = f
```

```
Enter Command: e
```

HA同期プロセスの詳細を表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# show logging process stack_mgr internal
```

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。